

令和6年度第1回西東京市農業振興計画推進委員会議事録

会議の名称	令和6年度第1回 西東京市農業振興計画推進委員会
開催日時	令和6年5月23日（木） 10:00～11:40
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎5階会議室
出席者	（委員）後藤委員長、田中副委員長、保谷委員、野口委員、蓮見委員、飯田委員、遠藤委員、林委員、北岡委員、菊池委員 （事務局）西東京市生活文化スポーツ部 原島主幹、産業振興課 山田課長、樋口係長、本田主任
欠席者	井口委員、中野委員
議題	（1）第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】の施策について （2）第3次西東京市農業振興計画の施策について （3）その他
会議資料	- 資料1 西東京市農業振興計画推進委員会委員名簿 - 資料2 第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】施策一覧 - 資料3 第3次西東京市農業振興計画施策一覧 - 資料4 農地貸借の現状
会議内容	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
○事務局： 【事務連絡（本日の欠席者2名・遅刻者・出席者の報告）】 傍聴人1名。 ○委員長： 第3次西東京市農業振興計画策定後の初回の委員会となる。 まず、事務局より配布資料の確認をお願いしたい。 ○事務局： 【配布資料の説明】 ○委員長： 議題（1）第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】の施策について、事務局よりご説明いただきたい。	

○事務局：

（資料２の説明）

○委員長：

何かご質問、ご意見があれば、発言をお願いします。

○副委員長：

JAの関係だと思うが、一覧の中の「青壮年部」「女性部」について西東京市だけのものなのか、全体のものなのか。

○委員：

以前は保谷地区と田無地区となっていたが統合されつつある。他の組織も統合されている。

○委員長：

農業景観散策会で、独自に他課との連携ができなかったという報告があったが、庁内だけでなく、市民が組織する団体等と連携をするのはいかがか。

○事務局：

今後、どのような団体があるか調査し、目的がマッチする団体があれば、連携も検討したい。

○委員長：

他に意見はあるか。

続いて、議題（２）第３次西東京市農業振興計画の施策について、事務局からご説明いただきたい。

○事務局：

施策の大分類ごとに説明する。

初めに、資料３（１）食と暮らしを支える多様な農業経営について説明

○委員長：

何か委員から意見があれば、発言をお願いします。

○委員：

野菜生産者について、市内の直売所でのぼり旗を配布しているのはどれくらいあるか。

○事務局：

庭先販売をしている農業者には配布している。令和５年に作成しためぐみちゃんをモチーフにしたマグネットを配布した際に、多くの直売所でのぼり旗がみられた。

○副委員長：

学校給食について、その支援については販路の拡大ということによろしいか。

○事務局：

委員のご指摘通りで、販路拡大を主眼に支援している。

○委員：

市産農産物等活用推進事業費補助金の内容について教えていただきたい。

○事務局：

出荷の際の野菜袋やキャベツの出荷の際の段ボール箱などに、イメージキャラクターの「めぐみちゃん」を使用した資材等の費用に対して補助を行う。

○委員長：

めぐみちゃんは市内産ということで意義があり広げていかなければならないが、さらにそれをつけることによって農産物の付加価値が高まるような活用の仕方を次のステップとして検討していく必要があるのではないか。

○委員：

市場出荷等する農業者もめぐみちゃんが入った資材を使用しているのか。

○事務局：

市場出荷用のキャベツを入れる段ボール箱にも使用しているし、スーパーなどに出荷する方も利用している。

○委員：

めぐみちゃんが市内産というだけではなく、高品質のものとなれば、ブランドの向上となるのではないか。誰でもつけられるものではなく、高品質で市民が安心して購入できるものであるとよい。

○委員長：

このような意見を具体化できるのかどうか、今後、検討していくことが必要ではないか。

○委員：

安全安心農業推進事業補助金について内容を教えていただきたい。

○事務局：

肥料や堆肥、有機質肥料や、マルチシートも生分解性マルチなど環境や生産物の安全性に配慮した物を購入した費用に対して補助を行う。

○委員長：

他に意見のある方はないか。

続いて、(2) 農地の保全と活用について説明をいただきたい。

○事務局：

資料3 (2) 農地の保全と活用を説明

○委員長：

何か委員から意見があれば、発言をお願いします。

○副委員長：

生産緑地の追加指定と、特定生産緑地の指定について伺いたい。

○事務局：

生産緑地の追加指定については、令和5年度1件、今年度2件となる。特定生産緑地の指定は97%程度となっている。

○委員：

生産緑地という事だけではないが、近年、宅地から農地への変更もある。⑨生産緑地地区制度への対応の中の取組みに加筆してはどうか。

○副委員長

農地再生に対する補助金もあるが、西東京市で対応はあるか。

○事務局：

西東京市での補助金の活用はない。

○委員：

計画では、1 生産緑地の保全と次世代農業者の農地確保 目指す方向性では「都市農業の根幹を成す生産緑地制度や税制について農業者の立場から積極的に意見を具申します。」となっているが、施策のどこかに取組みを入れてもらえるとよい。

○委員：

農業委員会では、毎年意見の提出を行っているが、税制に対しては難しい問題かと考える。

○委員長：

農地の保全と活用について考えると、計画にあるように貸借は重要であるが、その前の段階で手を打つこともが必要ではないか。市民農園や体験農園、援農ボランティアの援助などは家族労働力が不足するようになった段階で考えられる対策かと思う。農家のニーズを聞き、労働力不足に対してどのように対応していくか、話す場を作る必要性があるのではないか。

○事務局：

貸借の話をする前に市民農園等への対応も含めて話していくようにしていく。JA と農業委員会とも話すようにしたい。

○委員：

農地の活用の仕方をどのようにしたらよいかわからない農業者が多い、また、今までのやり方などを積極的に変更しようとする人も少ない。意識改革するのは難しいと思われる。

○委員：

令和5年度より農業者開設の市民農園も増え、市民農園の空きもある状況がある。市が申し込み状況等集約してもらえるとよい。

○事務局：

先日実施した、JA での販売会の際には農業者開設の市民農園の PR を行った。今後も対応していきたい。

○委員長：

他に意見のある方はないか。

続いて、(3) 多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営について説明いただきたい。

○事務局：

資料3 (3) 多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営を説明。

○委員長：

何か委員から意見があれば、発言をお願いします。

○委員：

援農ボランティアの登録数と、農業者とのマッチングの形式についてうかがいたい。

○事務局：

援農ボランティアは、東京の青空塾卒業生対象に農のアカデミーに登録し活動している。今年度の援農ボランティアの希望者は5名であった。現在農のアカデミーの登録は31人。農業者から援農の要望が市にあった場合、メンバーに知らせる。また、農のアカデミーには登録していなくとも、東京の青空塾卒業生には援農依頼があった際には連絡している。

○委員：

援農ボランティアを活用している農業者の数はどれくらいいるのか。

○事務局：

現在活用している農業者は5から6人だと認識している。

○委員：

先日令和7年度の補助金要望依頼があったが、知らせをもらって短期間で見積りを提出しなければならなかった。提出の期間に余裕を持たせるなど検討してほしい。

○事務局：

東京都が関係する補助金は、補助金の確定があってから、農業者の方に案内をしているために、申し出までの期間が短くなってしまい、申し訳なく思っている。事前に相談があった場合は早めに見積書を取った方がよいと話をするようにはしている。

○委員：

事業全般に関しての話にはなるが、年度の早い時点で次年度の要望を聞き、案内自体は予算の確定後になってしまうのが現状である。スケジュール感については確認をとることはできる。

○委員：

認定農業者は（5年間の）認定農業者改善計画を作成しているので、その計画の中で数年先を見据えて、導入の相談や調整が行われるとよいです。他市の取り組み例なども参考にしてみると良いと思う。

○委員：

計画的なものばかりでないのが現実。機械はできるだけ長く使おうと考え壊れてしまうまで使用してしまう。

○委員：

その様な際には、農業近代化資金も利用していただくことができる。

○委員長：

援農ボランティアについて、農業者への周知が不足しているのではないか。農業者には援農ボランティアに対して、面倒だとか役に立つのかなどの気持ちも少なからずある。活用できれば農家、ボランティア双方に意味のあるものなので農業者への宣伝が必要だと感じる。

○委員：

農業者は自分の経営に参加してほしくはないと思っている人が多いように感じる。
人手不足であれば、援農ボランティアを活用したほうが良いのだが、保守的に考える農業者が多い。

○委員：

援農ボランティアをしている。その中で、経営に関することはほとんどやっていない。やっていることはじゃがいもの植え付けなどもあったが、一番多いのは雑草抜きや残渣の片付けとなる。未利用者の農業者の方へそのようなことを伝えられるとよい。

○委員：

雑草抜きなどでは申し訳ないと農業者は感じる。

○委員長：

援農ボランティアをどのようにうまく活用できるか。現在の取組みを委員に聞きたい。

○委員：

援農ボランティアは現在 70 人ほどいて 3 農業者で対応している。大変役立っているが、農業者 3 人がローテーションで、月 1 回の定例会や勉強会を実施している。メンバーを増やすことも考えたが、そうすると、定例会等の負担も増える。

見学会の実施やイベントを通して、農業者とボランティアの繋がりができる。都合の良いときだけ活用するのではなく、農業者も負担をすることが必要だと考える。公民館での講座の講師もしていて、半年の講座だが、その参加者に声をかけている。基本ができていれば今後グループ化などできるとよいのかもしれない。

○委員長：

委員はボランティアを長く受入れ、完成形のように感じるが簡単にできるものでもないと思う。農業者の力があるうちに、ボランティアの育成についての位置づけも検討し具体化できるものをしていただきたい。

○委員：

現在農地を使用貸借している状況。自分の土地ではないため、農地等で使用するものなど、大きな投資ができない。そのような多様な農業者の意見を今後聞いてほしい。

○委員長：

西東京市は規模の大きくない農家が多いと言われる。そのような農家での、必ずしも専業でなくともよい多様な農業後継者の在り方、経営や工夫を後継者候補者が自由に話し合う場が必要なのではないか。

○委員：

後継者も、青壮年部等に出席している農業者は意欲があると思われる。出席していない農業者の意見の集約が難しい。

○委員長：

現在勤めていながらも農業後継者になっていくという考え方や、やり方などを情報交換する機会が必要ではないか。

○委員：

都市農地で貸借して農業をすることの難しさや農地の管理の難しさがある。
農家の後継者が集まり話すことは必要だと感じる。

○事務局：

後継者が増えてきているように感じている。今後は後継者に対しても研修、懇親会、情報交換をして、最先端の農業を知ってもらうような機会を設けられないかと考えている。

○委員長：

他に意見のある方はないか。

続いて、（４）農業を通じた交流について説明いただきたい

○事務局：

資料３（４）農業を通じた交流を説明。

○委員長：

何か委員から意見があれば、発言をお願いします。

○委員：

庁内連携について、他課の委員会に出席して、農地を残そうという色合いが濃く出ている。農業以外の分野との連携が必要だと感じる。また、その情報を農業委員会で知らせることも必要。お互いの情報をやり取りしなければならない。

○委員長：

今後は市民の理解も重要。環境や食べ物など関心を持って活動しているグループも多いので、どのような活動をしているグループがあるのかデータを揃えておく必要がある。いろいろな活動の時に呼びかけ、つながりができることですそ野が広がるのではないか。

○委員：

協働コミュニティ課が管轄で市内を４つにコミュニティを分けている。その中で北東部のコミュニティに属しているが、昨年度はスタンプラリーを行い地域とも交流を持った。農業者とふれあいたいが、どのようにしたらよいかわからないという現状もある。

○委員長

他に意見のある方はないか。

続いて、議題２（３）その他について、資料４「農地貸借の現状」について事務局に説明いただきたい。

○事務局：

資料４「農地貸借の現状」を説明。

○委員長：

何か委員から意見があれば、発言をお願いします。

貸借の実績は着実にあると感じる。

○委員：

使用貸借と、賃貸借の違いを教えてください。

○事務局：

使用貸借は土地の使用に関して無料。賃貸借は賃料が発生する。使用貸借は契約期間内であっても、土地の所有者から返還の話があった場合は返還しなければならないが、賃貸借は契約期間は継続される。

○委員長：

他に意見のある方はないか。

続いて、事務局より事務連絡があります。

○事務局：

第8回議事録について、修正等がある場合、5月30日（木）までにご意見をいただきたい。

次回の委員会は11月を予定していますが、資料1にも記載してありますが、現委員の任期は令和6年9月28日となっておりますので、このメンバーでの委員会の開催は最後となります。

本日の委員会会議録につきましては、後日委員の皆様にご確認いただき完成させます。また、本日いただきましたご意見により、施策一覧につきまして、修正があった場合にも、皆様にお知らせいたします。

お陰様で無事に「第3次西東京市農業振興計画」を策定することができました。皆様のご協力、ありがとうございました。

○委員長：

委員方から全体を通してご意見等はございませんか。

それでは、「令和6年度第1回西東京市農業振興計画推進委員会」を閉会いたします。大変お疲れ様でした。

《閉会》